

平成 29 年度 第 2 回日野町総合教育会議議事録

1. 日時：平成 29 年（2017 年）11 月 2 日（木）15 時 30 分～17 時 00 分
2. 場所：日野町役場 301 会議室
3. 出席者（敬称略）
藤澤直広日野町長
日野町教育委員会：今宿綾子教育長、西村吉弘教育委員、山田めぐみ教育委員
高橋政宏教育委員、谷信代教育委員
庶務：高橋正一教育次長、野瀬薫学校教育課参事、正木博之学校教育課参事
日永伊久男生涯学習課長、宇田達夫子ども支援課長、高浪郁子図書館長
柴田和英企画振興課参事、横山のりこ主査
4. 傍聴人 0 人
日野町総合教育会議
日時 2017 年 11 月 2 日 301 会議室

柴田参事 ただ今から平成 29 年度第 2 回日野町総合教育会議を始めたいと思います。開会にあたりまして、町長からご挨拶をお願いします。

町長 皆さん、こんにちは。今日は第 2 回の総合教育会議ということでございます。教育委員の皆さんには日頃から、日野町の社会教育全般にわたって、色々のご議論いただいております、大変ありがたく思っております。委員さんのメンバーは、毎年この時期に入れ替わるわけですが、またそれぞれの新しい目線で、また経験を積んだ目線で、教育行政にご意見を賜り、教育委員会の業務が進んでいければ、大変ありがたいと思っております。

日野町におきましては、色々な事業に教育委員会としても取り組んでいただいております、環境整備ということで、今年は日野小学校の給食施設の建設あるいは中学校のグラウンドの改修なども含めて、事業をさせていただいております。

今日は平成 30 年度に向けた教育のあり方、さらには現在の状況などについて、意見交換できたらありがたいと思います。よろしくをお願いします。

柴田参事 ありがとうございます。早速次第に基づきまして、3 番の協議事項に入りたいと思います。ここからは会議の進行は町長の方でよろしくをお願いします。

町長 それでは平成 30 年度の教育行政についてということでお願いします。

教育長 それでは A4 の構造図を用意していますので、それをもとに説明をさせていただきます。まず、平成 30 年度の重点として表題に書かせていただいておりますが、平成 29 年度後半がまだ残っておりますので、新しいことを示すというよりも、

今までしてきたこと、今していることの方向性をさらに示して、宣言をしているものです。それを平成30年度もつなげていって、重点的に取り組みたいということを表しています。

日野の教育の重点としましては、「日野の宝を未来につなぐ 心豊かでたくましい人づくり」と町の教育振興基本計画の目標を掲げていますが、今後の方向として、町全体で地域の将来を担う子どもたちをしっかりと育成することを目指してこの表現にしました。それらの思いや目標を、学校教育課・生涯学習課が共に持ちたいと思います。今している事業はこれらの目的のために進めているのだということを再確認するということでございます。

表の左の方に学校教育課の重点をあげさせていただきました。右の方は生涯学習課の重点をあげています。

まず学校教育の目標ですが、次期学習指導要領への対応をしっかりと。改定の趣旨を理解して、色々な内容のカリキュラムマネジメントをしっかりと取り組むことが最重要課題となります。タブレットやITC教育の充実、外国語に対応する支援員の配置や特別支援教育についての成果については後ほど説明させていただきます。

二つ目には、授業改善をあげさせていただきました。子どもたちの力をつけるための授業改善について、各学校でも取り組んでいますけれど、先進校を視察するなどして授業研究を進めていきたいと思います。教職員の組織として50代後半が大変多くなりまして、教職員の若返りが始まっているわけですが、管理職も含めて大きな組織替えは大きな課題であると思っています。若い世代の教員をしっかりと育てる責任があると思います。その観点でも、しっかり指導していきたいと、授業改善を大きな目標としてあげさせていただきました。

それから心理面・生活面への支援ですが、子育て教育相談センターの機能を充実させていただいています。これらの機関を有効的に学校とつないで、子どもや保護者、教員ともに、つながっていきたいと思います。それから不登校につきましては、依然として大きな課題であります。しかし全く手つかずという状況ではないといえると思います。スクールカウンセラー(SSW)や学習支援員の活躍によって、計画的な取り組みが、改善の兆しとしてみられています。しかし次々と新たな問題が生まれてきているということも現実であります。

幼稚園、小学校、中学校、高校の連携、接続も重点にあげているわけですが、子ども達の生活や学習の状況、また学力の定着といったものを校種を超えて共通して引き継いでいくということが必要となってきます。日野高等学校につきましては、県立ということで少し町立とは立場は違いますが、中学生、高校生がいきいきと活躍していただくということも、今後の取り組みの観点として持ちたいと思っています。

それから家庭教育への啓発ということにつきましては、これは生涯学習の方でも大きくあげているところですが、学校教育についてもこれは欠かすことができないと、あえて入れています。これまで生涯学習の方で子育てリーフレット等を作成していますので、もう一度重点として持ち直して、取り組みを明らかにしながら、PTAとも連携していきたいと思います。

地域との連携については、表の真ん中の「ふるさと絆学習」で説明させていただきます。

表の右側の「生涯学習による地域力の向上」のところですが、生涯学習課では様々な事業や取り組みをして、地域力向上を目指しています。公民館活動の活性化、生涯学習の振興、青年会・女性会への活動の支援、日野町人権学習の推進、スポーツ振興、青少年教育の推進、マイナス1歳からの家庭教育、これらの取り組みは、単なる事業をしているというだけでなく、絶えず目標を振り返りながらしていこうということで、確認をしているところです。

共通の事業として、今年から「ふるさと絆学習」を設定させていただいていますが、ここにきてやっと軌道にのってきたという声を学校の方からいただいています。この後も、それぞれの学校のコーディネーターへのアンケート、またコーディネーターとの情報交流をしていきたいと思っています。そしてこの絆学習を通して合い言葉を考えました。ひのっこを育てるということで、「ひ」「の」「っ」「こ」の文字をとって、「ひのを大切に子ども」これは郷土愛につながります。「のびのびと ともに学ぶ子ども」これは確かな学力を意識してほしい。「地域のよさをつたえる子ども」これはしっかり伝えるということとともに、子どもに人と人のつながり、コミュニケーションの力をつけさせたい。「地域と繋がり 行動する子ども」これは実際に実践する、動く子どもということで日野を大切に、のびのびと良さを伝える、しっかりと行動するということを目指しながら、ふるさと絆学習を取り組みたい、平成29年度の後半がきましたので、この後もそして平成30年度もやっていきたいということでございます。さらに、それを支える地域として、教育行政の施策として、放課後、土曜日、長期休業中の学ぶ機会を提供できる体制として、地域未来塾、放課後子ども教室、子ども学習支援事業等を今年度にひき続き、次年度も取り組んでいきたいと思っています。30年度につきましては、地域未来塾という形で中学校の方でも地域学習の体制を作っていきたいと思っています。以上、この表につきましては、今説明させていただいたとおりです。

町長 はい、では、次にいってください。

野瀬参事 今教育長からご説明がありましたので、もう十分おわかりいただいていると思いますし、教育委員会の方でご意見を賜っておりますので、重なる部分もあるかと思いますが、いくつかについてご説明させていただきます。まず、一つは、

今年度町長のご許可をいただきまして、「ふるさと絆事業」を始めさせていただきました。

町 長 教育委員会が議論した上で事業を進めているのであって、別に首長の許可のもとで教育委員会が帰属しているのではない。

野瀬参事 生涯学習課とも連携させていただきまして、「ふるさと絆事業」を始めさせていただきます。教育長がおっしゃったことそのままですけれど、今日野小学校の方では連日赤十字の方々が来て下さりまして、ソーイング等色々なことをしていただいています。お茶摘みの体験をするなどフォローしていただきながら、学校の方で充実した活動をできるように体制を整えていただいているところです。子ども達が体験をして、やらされる授業ではなく、自分たちで喋りたい、書きたい、表現したいというような授業になっていくようにということも含めて、学校の方も充実を図れているかと思います。そのことが将来的には学力の向上につながっていく、表現力、判断力、思考力の拡大につながっていくと考えております。中学校の方でも、日野町の良さを体験していただくためにも広げていきたいと考えています。

次に、教育長が昨年度四つの方針を示していただきました。今年度三つの方針を示していただいたのを実現していくために、日野っこ育成プロジェクトを進めさせていただいております。一つにはふるさと日野教育の推進ということで、日野椀を用意しましたので岡井課長補佐に各学校でご指導いただきながら有効利用していくと共に、先日もふるさと日野の推進委員の方に集まっていたいで、日野椀の歴史ということで、お話をさせていただいたところです。また夏にはダイフクに、先生方を募集して訪問して地元の企業の良さを体験し、それを授業にどう活かしていくかという話をさせていただいたところです。教育推進委員会の方では、来年度が本格実施ということですので、年間計画を作ったり、全体計画を作ったり、非常にたくさんの考えなければいけないことがありますので、それに伴うように先生方の絆を結びつけて、発していただいているということです。

また学力向上では、一番の課題なんですけど、「学ぶ力向上 12 プラン」というものを校長先生方と相談させていただいて、させていただくということです。先進地研修もその一つですし、小中の連携、幼小の連携もその一つです。また放課後子ども教室につきましても、13日までに各学校で、どのような実施をするか計画を出すようお願いをしているところです。今年度超過勤務等についても考えていただかないといけないところで、後半そういうことも考えながら、来年度先生も子どもも育つ日野町を目指してがんばっていききたいと考えているところです。

町 長 日野椀はいくつするのですか？

野瀬参事 日野椀は今月の末までに 40 個整えるということですので、徐々にさせていただきます。一つは家庭科の授業との関連を含めまして、実際日野椀の歴史を学んだ後、日野椀を使った料理を体験し、学んでいく。もう一つは日野椀を扱った道徳教材を活用して、三学期に南比都佐小学校の杉江先生の方で授業研究をしていただく。道徳の面から、家庭科の面から、そして歴史の面から学んでいくということを考えています。

町長 教育長 それでお味噌汁やご飯を配るのですか。
お味噌汁を思っています。日野椀にはストーリー性があるんです。だから出会いを大事にしたいというので、どんなふうな話をしていこうかを今考えています。

町長 先にごちそうを食べないと興味がわかないのではないかと。

町長 教育長 子ども達にとって、難しいことをわかりやすく、やさしく。

町長 食べもしないのに、日野椀はこういうのだと喋るのですか？

野瀬参事 先に食べてからがいいのか、勉強しながら食べるのがいいのか、そこは工夫がいる。

比佐小学校では、いつかしてほしいと声があがっていますので、予定をたてていただく方向です。

町長 そこはうまいことピーアールしてほしい。教育委員会の中に閉じこもっているのではなくて。

野瀬参事 やっていることをどうアピールするかも考えていきたいと思えます。

町長 教育長 全小学校でやっていきたい。

町長 これには日赤奉仕団の女性たちが味噌汁を作りに来られるのか。味噌汁作れる若い先生はいないのではないかと。

野瀬参事 それもいいアイデアですね。

町長 味噌汁も難しい。塩分の取り過ぎは駄目と保健センターでは言っているが

野瀬参事 出汁は煮干しからとりますので。

日永課長 地域学習の充実ということで、生涯学習につきましては、出前講座一学校の子どもたち向けの講座であったり、先生向けの講座であったり、地域向けの公民館でされる講座等、要望があれば職員が出向いて学習を進めているところです。おかげさまで昨年度から今年度にかけて、たくさん要請をいただきました。ふるさと学習をしていこう、進めていこうという思いが地域の方にも伝わってきつつあるので、出前の要請も増えつつあるところでございます。ふるさと学習をすることによって、日野の子どもたちにとって、自分の生まれ育ったふるさとがいかに素晴らしい歴史があるかということをも十分に認識してもらって、自分たちの町を知り、大事に思い、これから自分たちが支えていくことになることを認識してもらえようになればいいなと思っています。地域学習は子ども

ただだけでなく、大人の方にも進めていかないとはいけません。なかなか地域の歴史は長く住んでいる方でも知っているようで、知らないこともありますので、自分の住んでいるお膝元の地域から始めると言いますか、新たな発見もあるかと思えます。地域学習を続けていって、自分の住んでいる地域には、どういう歴史や文化があるかということを知ってもらって、日野に来られる方であったり、町外の方に日野がどんなに素晴らしいところであるか、住民一人一人の方が胸を張って言えるような町になるようにと願いながら、地域学習を進めています。

次に公民館の関係ですが、公民館の活性化が叫ばれていまして、地域の方々も公民館活動に大きな期待を寄せられていると言われていたところだが、なかなか今の少子高齢化という状況の中で、事業を色々するのはなかなか難しいところがあります。今までずっと伝統的にやってきた行事ができない状況になりつつあります。ただ、できない、できないと済ますのではなく、なんとか形を変えて、工夫を加えながら、公民館活動を進めていって、地域の活性化につなげていっていただきたいと思っています。今まで公民館の活動は参加される方が、自分の教養を高めるとか、自分の興味のために色んな講座に参加したりということが多かったと思うのですが、これからは地域の方や子どもたちに向けて、学んで身につけたものを逆に講師となって教えるというような方向に進めていかないとはいけないと思いますので、そういう意味ではふるさと絆事業とからめていきたい。今はどちらかという支援員さんが学校に入って、活動されているのが中心ですが、逆に学校ではこういう人材が求められているということ把握して、求められているニーズに沿うような地域の講師の人を育成できる講座ができるようになればいいなという思いを持っています。

人権学習につきましては、昨年同和問題を蒸し返すような法律が云々されたわけですが、日野町は確たる自信のもとで、人権学習については進めていかないとはいけないと思っております。

スポーツ振興につきましては、日野町には誇れるようなスポーツ選手がたくさん出てきておられます。少し前まではそういうことはなかったが、最近では知らない分野でも、色々な方から情報を得て、そういう方々を紹介することによって、子どもたちのスポーツに対する想いを強めていただいて、ゆくゆくは日野町から優秀なスポーツ選手が育っていてもらいたいなと思っています。

青少年育成の関係では、挨拶運動を今力強く進めているところです。その一環として、夏休みの期間中ですが、地域のラジオ体操に子どもたちに積極的に参加していただいて、地域の大人の方もラジオ体操に参加していただいて、普段なかなか接することのない子どもと大人がラジオ体操を介して顔見知りになって、挨拶をして、というような形で世代間の交流を進めていって地域のなごや

かな雰囲気づくりを進めていかなければいけないと思っています。

家庭教育については、子ども相手の教育と誤解されがちですが、家庭教育というのは、子育てする大人を教育するということもあります。日野町では子どもが生まれる前、身ごもられてからのマイナス1歳から、これから子どもの親になろうという若い人達への教育を推し進めていこうと、マイナス1歳からの家庭教育を推し進めています。

ふるさと日野教育の充実の中の地域未来塾の中に子ども学習支援事業がございます。これも今年度新たに取り組んだ事業で、経済的に恵まれない家庭の子どもで学習意欲のある方を対象とした学習支援です。貧困ということが言われていますが、貧困ゆえに十分な学習ができなくて学力がつけられないということで、十分に学校に行けなくて、そのせいで十分に仕事にもつけない、それでまた貧困な家庭が生まれるという悪循環がありますので、その悪循環をなんとか断ち切る意味で、経済的に恵まれない家庭のある子どもを対象にそういう学習支援をしています。今年は前半期は中学三年生の方を中心に開始しておりまして、4人対象の方を募集して、4人の応募があり、毎週一回金曜日に図書館を中心に勉強会をしております。指導いただくのは、ボランティアのサポーターさんで大学生の方8人くらいおられて、交代で中学生の面倒をみています。九月以降後半では、中学三年生だけでなく、二年生、一年生にも広げようと希望者を募集しましたところ、三年生も含めて新たに七人の方の応募がありまして、十月くらいから一緒に授業に参加しています。開催日数は四月から始まりまして、のべ26回開催しておりまして、高校生の方が去年から継続されていて、その方がのべ16回、中学三年生はのべ48人、中学一年生が一回、サポーターさんのべ92人という数字になっています。

高浪館長 先ほど配布いただいた資料には図書館という文字がなく、どこに位置づけたらいいのかと教育長からも言っていたのですが、図書館はこれにきっちり入らない所が弱みでもあり、強みでもあると、なんとなく思いました。教育施設でありながら、教育だけにとどまらないところがあるかと普段仕事をしていて思うのですが、位置づけがないのは弱いところがありますので、そのあたり考えていきたいと思っています今年度につきましては、「出かけていく図書館」というコンセプトと「住民の方の視線を大切にしていこう」ということをしてまいりました。出かけていくというのは移動図書館サービスを始めたり、本のセットを作って貸し出すということがあります。それから、ひのまるマルシェという住民の皆様がされている行事にも参加させていただきましたし、また11月にもお誘いいただきましたので、参加させていただきます。ここでは、本を貸し出したりということはないのですが、いいピーアールになるし、その場で今まで見たことのないような本をご紹介します、こんな本もあるんだというふうに

図書館への誘いをできたらと思っています。また、住民の方の視線を大切にということですが、本のバーコードをはがして廃棄するために、その季節になるとボランティアさんを募集して作業していただいたりとか、それ以外にも昨年度からしている託児サービスにボランティアさんに入っています。図書館を利用されているお母さん（今のところお父さんのご利用はないのですが）、保護者さんが少しでも自由な時間を持てるように、お子さんをボランティアさんによって預かっています。そういうボランティアに入っていた方から、図書館がどう見えるのかというのを折々お話を伺って、それを活かしていったりしています。あるいは蔵書点検の時に本をバーコードで読み取っていく時にボランティアで来ていただいて、図書館がどう見えるかをお話いただいたりと、色々お話いただいて、それを運営に活かしていきたいと考えています。本年度は託児と移動図書館を新たに始めたようなものですが、来年度さらにもう少しそれを進めていけたらいいなというように考えています。

町長 ありがとうございます。

教育長 構造図のふるさと日野教育の充実というところの右端の空きスペースを利用して、そこに強調した別の枠を作って図書館の利用という言葉をつけ、高浪館長が先ほどおっしゃっていたキャッチフレーズの「町に出かけていく図書館」「住民の視点を大切に」というところを付け加えたいと思います。

町長 それでは谷さん、今の話にとらわれず、難しい話ばかりしないでどうやねんという話も含めてどうですか。

谷委員 構造図の左の学校教育の授業改善の項目のところに入るのかなと思って話のですが、今年初めて小学校に地域コーディネーターさんが入られたのですが、その先生と少し話す機会がありました。週に二日ほど来ていただいているのですが、今年から初めて始まった授業なので、何をしたいか、やることはたくさんあるのだけれど、実際どこまで動いていいのかわからないという先生の話がありました。まだ全然うまく起動していない。もう少しコーディネーターさんの動いてもらい方というか使い方というか、せっかく学校に来ていただいているので、もっとうまく子どもたちと一緒に過ごしてもらえたらなと思ったのが一つです。

あともう一つ、幼小中高の連携、接続というところで、幼稚園どうしは年に3回か4回ほど、各幼稚園に他の幼稚園の子どもたちが集まって交流会をやっていると思うのですが、小学校になって横のつながり、小学校どうしの交流会というのは難しいのでしょうか。幼稚園の時に交流会をしていて、違う幼稚園のお友達と年に何回か会うから、顔も名前も覚えて、よその地域に住んでいるお友達と仲良くなるのだけれど、幼稚園を卒園して小学校になったとたん、交流がなくなって、1年、2年目ぐらいまでは、そのお友だちのことをたまに話した

りして記憶に残っているが、3年生4年生くらいになると、そういう子いたっけとみたいな感じになってしまう。せっかく交流を持って日野町のお友だちが増えたのに、日野中学校で出会うのだけれど小さい時の記憶はない。また一からお友だち関係を作っていくかといけないというのは、ちょっともったいないかなとすごく思いました。

この間中止になりましたけれど、合同体育祭で小学校6年生が小学校一堂に会いますが、皆一生懸命競技をしているので、よその小学校のお友だちと交流や仲良くなるとまでは、きっといかないのだろうと思う。中一になった時、うちの小学校は小規模なので、皆お友だち作りにすごく苦勞しているのです、毎年何回か他の小学校との交流会があれば、お友だちが増えて、ちょっとでも顔見知りがあったら、中学校にも行きやすくなるのではないかなと母親からの目線で思ったので、できるかどうかはわかりませんが、小学校でも交流会をやっていたらいいと思いました。

高橋委員 日野の教育振興基本計画に基づいた日野の教育の重点として、左は学校教育、右は生涯学習で、どういう見方をするかによって変わりますけれども、私はこれはすべて事業だと思っています。教育委員会は、一つには事業化することが大事で、それを見える化することも大事だと思います。例えば家でテレビを四時間以上見ている子がかなりいるというようなデータを全校生徒、保護者らに3～4年分のデータを見せて、教育委員会としても方針はあるのですが、各々の家でどうしたらいいかと提案されたりする。そういうように色々提案されていますけれども、一つの事業をすれば、それを保護者だけとは言わず、地域住民の方にも見える化という形—数値化、それが一目瞭然だと思うのです。それについて、成果がこれ、課題がこれというようなことをしないとイケない。私は震災の時から思っているのですが、日野の子どもについて一番大切なのは、子どもの学力を上げることだと思うんですね。どこの地域でもそうでしょうが、日野の子どもの家に帰ってからの生活が基本になっていて、その生活を子どもたちは小中問わず学校に持ってくるわけです。勉強道具だけ持ってくるわけではないのです。毎日の生活を子どもたちは学校に持ってくる。ですから、お母さんの協力も必要ですが、家での生活を高めていくために、データを活用して、どうしたらよいかというようなシンポジウムなどを、以前から言っておりますが、ぜひとも実現させていただきたいと思っています。

今、学習指導要領が大きく、ものすごく変わりました。見た目がものすごく変わっています。前文とか総則とか教育課程の一般方針等が名前が変わってます。私は日野でそういう仕事をしていますが、ここにおられる教育委員の皆様はそれぞれの立場は違うわけで、文科省でも色々な資料を出していると思いますので、また適切な時期に、ここに掲げています次期学習指導要領への対応は今年

は知徹底の時期でありますけれども、そういったものをお読みいただけたらと思います。

また、併せて来年度から中学校に地域未来塾が開校することに、私自身個人的に関心を持っております。放課後子ども教室などもありますけれども、こういったものも、数値化することが必要だと思います。あの時期に何人参加して、どうだったとか、そういうのは公表されていないのか、私が見ていないのかわかりませんが、見える化ということをぜひともご検討いただけたらうれしいと思っています。

山田委員 西大路小学校ではふるさと絆学習のおかげで、日赤の方に給食袋を縫っていただきました。スポーツの振興ということで、町民運動会に中学生も何人か出て下さいまして、町長も出ていただいて、ありがとうございます。皆で日野を盛り上げていこうというのは、すごくいいことだと思うので、このままこういう感じで向上していけたらなと思います。そういうのが高まっていくに従って、たぶん学力も一緒についてくるという話を私は信じています。

これから教職員の若返りがしていくと、さっき教育長もおっしゃったのですが、学力も必要、指導力の向上も必要だと思っています。あわせて家庭でのスマホ、ゲームについては、PTAでも気をつけないといけないと思うところです。掲げてくれた目標に向かって、皆で向上していけたらなと思っています。

西村委員 3つ申し上げたい。一つは、学ぶ力とありますが、その前に生きる力。私が中学校を卒業したのが1957年で、卒業して60年です。日野東中学校で1学年で6クラスありましたので、1クラス48人ほどで290人ほどが卒業しました。11月6日に近江八幡で同年会がありました。案内を出したら50人ほどが手をあげてくれました。面々の名前を見て中学校を卒業する時の姿や生活を思い出すと、まさに生きる力というか、私も含めて困難に打ち勝って今日を迎えたのだなと感慨深いものがあった。口で言うのは簡単ですが、世の中の動きも複雑ですし困難なこともいっぱいありますので、そういうものに自分が打ち勝っていく、自分の力で困難を乗り越えていく力をつけていく、これをすべて学校に頼るというのでは、学校も大変だと思います。そういう意味では、今回「ふるさと絆学習」の中で学校と社会の連携という一つの舞台が用意されているので、その中で子ども達を育てていく、生きる力を強く持つてもらうために、支えもし、指導もしていかないといけないと思います。

二つ目は、子どもの学習環境をあげていかないといけない。目先からいきますと、この間の学力テストをみても、点数が地域によって差があるように思います。私の長男の子どもは三人いるが、そのうち二人が大阪府下の小学校に行っている。毎日塾詰めになっている。土曜日曜はせめて遊んでいるのかと思うとそうではない。学校に行っている間は皆が同じように学ぶということだが、そ

の外側に教育も含めた民間のビジネスがどんどん提供されていく感じである。そういう子どもたちは揉まれている。そういうのと比較するのも具合悪い話で、日野は日野として子どもを育てていくのであれば、学習環境を整備していこうとしたら、今何に焦点をあてて、何をやっていったらいいのか。ここに見える化という手法を取り入れながら、納得してもらって、地域家庭で実行できるところから、粘り強く実行していかないといけないと思います。風邪ひいて薬飲んで治ったというような即効性を求めるのではなくて、遅効性といいますか、きっちりワンステップずつ上がっていきけるような目標を立てて、皆で取り組んでいかなければいけないと思います。

三番目は、この構造図は色々と考えてご論議いただいて出してくださったものだと思うが、この下にもう一つ支える底辺があると思います。それが何かというと、日野町の文化芸術であり、自然、歴史、文化財といったものが底にある。その部分は当然教育委員会のやっていかないといけないエリアの中のことで、それが外側に向かっていくという意識を持ちつつやっていただきたい。そういう意味では、文化芸術の面では羽ばたいているというイメージがあるのですが、自然、また長年積み重ねられてきた歴史、それが一つの形として残っている文化財、そういった部分にも光をあてて、町づくりの大きな流れの中で、常に町として育てていって、これを土台にしてほしい、土台にしていかないといけないと思っています。よろしくお願ひしたいと思っています。

町長 四名の教育委員さんから端的なものを射たご指摘やご意見がありましたので、それぞれ先ほど喋った三人が端的に喋っててください。

野瀬参事 町長がおっしゃいましたように、的を射たご指摘をいただいたと思っています。谷委員からご指摘いただきました地域コーディネーターの件ですが、一学期後半6月からスタートさせていただきました。二学期の途中約4ヶ月程活動を進めさせていただいて、やることは多くあり、求められている役職なのは確かだと思います。ただ今ご指摘にありましたように、これからどういうように動いていったらいいかは、今悩み試行錯誤しているところだと思います。日野町は公民館を核とした地域づくりがある。そこに学校も入らせてもらって、公民館と学校を核とした地域づくりというところでやらしてもらおう。これは大きく大上段に構えれば、文化を作っているというか、思いのある人が活躍できるステージを用意しようとしているというのが、大きい構想の中の取り組みだと考えています。ですから、そのステージを作るために、どうしていったらいいかを、色んな方法があるので、今苦勞していただいているところかと思っています。自分が動くのは簡単だけど、どうしたら、人に動いていただいて、学校に思いのある人が入ってもらってもいいよという雰囲気を作るにはどうしたらいいかというところが困っていらっしやるのかなと思います。そのためには一学期の末に

も実践交流会をさせていただきましたし、今度 12 月 12 日にも実践交流会をさせていただきますと思っています。また、その中でどういうことをやったかということ、一步一步ですが、学びつつ、大きな文化づくり、ステージづくりに取り組んでいけたらなと願っているところです。

2 番目の谷委員のご指摘の交流というところですが、確かに幼稚園の方では交流をたくさん持っていらっしゃると思います。幼稚園ではどういう目的を持っていらっしゃるかわかりませんが、交流自体が目的になってくるかと思うのですが、小学校では交流だけを目的にということはなかなか難しい。そうしますと、交流は何のためにするのかということを考えなければなりませんし、それが学習指導要領上どのような意味を持つのかを考えていきますと、集まればいいというだけには、なかなかならないということがあります。ただ、その中でも、体育大会とか芸術鑑賞会は共にさせていただきます。そこで交流があるかという、なかなかないのですけれど、一緒のものを観て、同じ体験をする。後は細かいことになってきますが、ウォーキングを 3 校が一緒に行くように配慮させてもらっているとか、小規模校どうし、山の子は一緒に行くようにし交流しているとか、校外学習でトヨタに行くのも、お金の面のあるのですが、3 校が一緒に行くとか、修学旅行も一緒に行ってはどうかという検討もさせていただいています。実際に集まって交流というのは、なかなか難しい面もあるのですが、そういう機会を通じて、少しでも触れ合える機会を増やしていこうということは考えています。

幼小中高連携の部分では、一緒に共に活動することもそうですが、子どもの育ちのつながりということで、児童理解をどうしようにつながっていくのか、カリキュラムをどうつなぐのかとかという点の連携もありますので、そのあたりも考えていきたいと思っています。

三番目の高橋委員からご指摘いただきました数値でというところですが、子どもの実態というのは捉えていく必要があるかと思っています。ただ何を数値として表すかという部分もあります。例えば教職員の超過勤務の時間を計算させてもらっているのですが、例えば去年の後半は平均すると 47 時間、今年は 61 時間の超過勤務がある。でもそれは、1 つの指標ではありますが、学校の実態を表しているというところではないのです。月 100 時間を超えて毎日超過勤務している学校もあれば、比較的超過勤務なしに効率的に授業を進めていただいているところもありますので、全体像を表しているかというとなかなかそうではないが、指標としての数値としてあがってきています。学力もそうで、何を出して、何をどうするか、競争心をあおるようなことになってはいけませんので、そこらへんは十分考えていかなければならないと思っています。

高橋委員から言っていたいただいた学習状況ですが、確かに保護者の方と連携をと

って、例えばスマホの時間とか、テレビの時間とかは数値をもとに話をしていく必要があるかと思います。そこで、この前生涯学習課が開いていただいた PTA の保護者の集まりのところに林課長補佐が行って、実際には日野町ではこういう数値なんですよと数値を示して、お話をさせていただきました。また先ほども言いましたが、青少年育成町民会議のところで、ふるさと絆事業のことを話をしつつ、実際には読書の二極化が進んでいるとか、スマートフォンを一時間以上使っているのが 51%だとか、そういうことを数値をあげてグラフを示して話をさせていただきました。そういうことを機会があるごとに、呼んでいただいたら、させていただくということでは不十分かもしれませんが、高橋委員がおっしゃっていただいたような形でご家庭にも普及をしています。

もう一つ、新学習指導要領への対応ということで、移行措置の件につきましても、道徳、外国語のことにつきましても、そういうプロジェクト委員会をもとに授業を進めておりますし、教育家庭フォーラムも今年は全学校に県教育委員会が行っておりますので、町教育委員会としましても一緒に行って指導させていただいているという点で、周知徹底と新学習指導要領での対応を進めていくというところです。

生きる力のところで、子どもの学習環境を整えるという意味では、日野町独自の雰囲気があります。日野町ではどちらかというと学校の勉強が中心で、比較的通塾率が高くないということがございます。日野町において、どういうことをしなければいけないかを考えた上で、今一つの案としては、放課後子ども教室を実施するのかというところらへんを模索しているところです。色々やり方がありますので、先ほど教育長がおっしゃってました学童、放課後子どもクラブと勉強する方がいいのか、公民館をもとにやらしてもらった方がいいのか、鎌掛はバスを利用しますが、バスの待ち時間を利用してやるのがいいのか、各学校の実態がありますので、実態に応じてどんなことができるかを、校長先生をはじめとして各学校の方で考えていただいているというところです。学校の授業の質を高めるとともに、そういう環境も整えられるように、教育委員会としては取り組んでいきたいと思っております。抜けているところがありましたら、ご指摘ください。

高橋委員 学習指導要領が大幅に見た目が変わっていますので、できましたら次回ぐらいに、文科省もたくさん出していますけど、やさしく書いたものがありますから、配っていただけるとありがたいので、よろしくお願いします。

日永課長 最初に谷委員から、今年から各学校に配置されました地域コーディネーターの活用が不十分ではないかというお話がございました。確かに今年から始まったということで、コーディネーターご本人もそうですし、先生方もまだ事業の趣旨を十分ご理解していただけていないのかもしれませんが、コーディネーター

さんの多くは教員の OB です。もう少し慣れられたら、先生からこうして
くださいという指示待ちでなしに、先生を十分サポートできるような授業に積
極的に自主的に取り組んでいただけるのではないかと考えています。またその
延長のなかで、学校だけでなく、地域の公民館などでも事業を進めていただ
けるといいなと思っています。

子どもさんの交流の関係で、学校単位での交流を前提におかれていると思
うのですが、生涯学習の観点では、例えばアドベンチャーキャンプなど色々
な子ども向けに事業を企画しています。それは学校や学年の隔たりも超えて、色
んな子どもさんに集まっていただいて、色んなことを経験しつつ、交流を深
めてもらおうという意味で事業をしています。それ以外にもスポーツ少年団やカ
ルチャー教室といった町内の子どもが同じ目的を持って集まってもらえるよ
うな機会も設けていますので、そういうことも積極的に活用していただくと、
多少交流が広がるのではないかと思います。そういうことでつながっていくと、
中学校になっても、顔見知りが増えるのではないかと考えています。

高橋委員から、学力向上が大切だということをおっしゃいました。家庭での生活、
学習の仕方において、親も子どもの学力向上に協力していかないといけないと
おっしゃっていますので、単に学力向上だけでなく、親への色々な教育も必要
になってくると思います。

山田委員がおっしゃられたスポーツ振興について。日野町からも優秀な選手が
排出されていますので、そういう方をどんどんご紹介して、それを目指して、
子どもがおおいにスポーツを楽しんでいただくとともに、大人も健康増進のた
めにスポーツに触れていただきたいと思っています。それとスマホ問題がある
と思いますが、最近の若い親は子どもをおとなしくさせるためにスマホを持
たせて、子どもが何時間も動画を見ているということも多いとテレビでやっ
ていました。スマホは便利な機械ですが、使い方を間違えないようにという
ことで、子ども向けのスマホ教室を毎年継続させていただいています。今の小
学生が親になる時には、間違った使い方をしないようになってほしいと思
っています。

西村委員が、教育委員会で用意した構造図の見えない下のところに、日野
町の自然、文化、歴史が隠れているとおっしゃいましたが、全くその通りだ
と思います。それにつきましては、この1枚のペーパーのなかに「ふるさと」
という言葉が5回も出てきていますので、西村委員がおっしゃられた日野
町の歴史、文化、自然は「ふるさと」という言葉に要約されて、この中に
散りばめられているのではないかと思います。そういうことを充分踏まえた
上で、街づくりも力を入れていかないといけないと思います。

高浪館長 図書館は具体的なことが苦手ですが、今色んな形で問題提起、ご
意見をいただいたことに対しては、図書館で所蔵している資料、本や雑誌
や新聞や CD、DVD

それからパソコンでインターネットを見ていただく、そういったものを使ってご自身で探し出していただくお手伝いができます。先ほど西村委員がおっしゃった生きる力を育てるために読書がとても大事だということは、自信を持って言えますので、それのお手伝いはしっかりできると思っています。今後もっと活字を読んでいただくように、図書館としても色々な事業に取り組んでいきたいと思っています。それ以外に居心地のいい居場所を提供したり、ギャラリー等で自己表現をしていただく場に使っていただいたり、色んな形で図書館を皆様を使いやすいように使っていただけるように、準備してお待ちしています。自分の場として使っていただくことで、今色んな形で問題提起していただいたことを解決していただくお手伝いができると思っています。抽象的な話ですが、そういうことで、ぜひご活用ください。よろしくお願いします。

町長 今一通りこちらの方からお話しましたけれど、委員の皆さんから、こういうことが言いたかったという事や付け足したいことがあれば。

高橋委員 先ほど西村委員から、ふるさと日野教育の充実のベースが、例えば文化財などとおっしゃられましたが、私自身は自然が好きで、自然というと魚とか植物とか石ころとかありますが、全国の市町村の中で天然記念物が一番多いのは実は日野町なんですね。ただ、非常に難しい報告書等になってますから、私の個人的な思いですが、そういうことに関わって子どもと一緒に活動できたらうれしいなと思っている次第です。また応援いただけたらと思っています。

西村委員 「ふるさと絆学習」では、地域が学校を支えるのに、ちょっとお手伝いするだけでなく、もっと強いつながりに発展させていくひとつの種がまかれたと思っています。日野には有能な人がいっぱいいらっしゃるので、そういう人を活用して、子ども達も一緒に切磋琢磨していく大きなステージが用意されたと思っています。コーディネーターの方にも色々知恵を働かせてもらって、前向きにやっていただきたいと思っています。

山田委員 絆事業は始まったばかりで、これから伸び代のある事業だと思うので、ぜひとも力を注いでいってほしいですし、子どもたちをいいような向きに引っ張って行ってほしいと思います。

谷委員 アドベンチャーキャンプとかスポーツ少年団に入られて活動している子ども達は、きっとお友達も積極的に作れるだろうし、自分で動けるのです。そうじゃなくて外に出ていけない子が、自分の小学校でしかお友達がいなかった子は、いきなり中学校で今まで会ったことのないようなタイプの人たちと接触して、人間関係を作っていくのは本当に大変みたいで、一生懸命居場所を作っていくんですね。自分で動けなくて、いっぱいの情報にあたって行って、学校に行くにくくなるという子が出てくるわけで、少しでも行きにくくならないように、学力向上はすごく大事なんですけど、まず学校に行けるということが大事だと思

います。

町 長 確かにたくさんの方数のいる日野小学校と、人数の一桁の小学校があり、それが中学校に行くと、200 人のところに今まで 17、8 人だった小学校の子どもは知らない子ばかりということになる。中一ギャップにならないようにするにはどうしていくか。それが交流でいけるのかどうかも含めて、日野町においてあまりにも規模の違いがあるので、そのところどう考えるのか。

学習時間を取らないといけないということですが、学習時間は学年に 0 をつけて、1 年生 10 分、6 年生 60 分というのを何かで見たが、それは、モデル的に、例えば小学校 4 年生は、どんな生活をして学習時間 40 分を確保するイメージですか。学校 3 時半に終わりました。家へ帰りました。4 時です。おやつを食べました。4 時 15 分です。さあ、それから 40 分勉強しましょうとか、どんなイメージなのでしょう。

教育長 40 分、50 分というのは、生み出すべき時間なんです。実態としては、テレビを見たり、ゲームしたりでとられてしまっているのが現実ではないでしょうか。保護者宛には学校から、家庭学習の基準とかやり方などの案内が出ていると思います。こうしてほしいと学校が家庭にお知らせしていることが、なかなか現実としては数字にあがってきていない。もう少し工夫した取り組みができないかと考えているところです。

町 長 塾に行っていたら、一時間くらいは勉強する。学童では勉強しているのか。学童にも塾にも行っていない子はどうしているのか。どういうイメージですか。というのは学力テストの結果が色々あるらしいけれど、南比がよくて必佐が悪いとか、西大路が良くて桜谷が悪いとか言っても、何の意味のないことで、地域で見ると、家庭環境や収入も含めた状況で分析した方がいいのではないかと思います。

宇田課長 学童は全部ではないが、宿題をやらせてくれる。学校から持ち帰りのプリントなどを学童でやっていますので、学年×10 分くらいのことは、学童に行っている子はできているように思っています。

町 長 学童に行っていなくて、塾にも行っていない子は、家にお母さんがいればどうですか。

谷委員 40 分さすのに必死です。家には誘惑がありますので、そっちになびいていくので、学年プラス 10 分という日もあります。

町 長 例えば、働いているお母さんが 6 時に帰ってきて、夕食を作って 7 時になりました。7 時に夕食を食べました。ちょっとテレビを見ていたら 8 時になりました。風呂に入らなくてはいけないし、9 時に寝なければならぬとすると、勉強する時間が物理的にない。どんなモデルのスケジュールを学校は提示しているのですか。南比都佐も日野もある意味関係なくて、西村委員が言ったように塾に

毎日行っている子どももいる、一番恵まれていると思われる家に母親がいる家庭はどうか、イメージを示さない。家庭学習の時間が40分、60分といっても、小さい子なら9時10時までには寝なくてはいけないだろうから、そのあたりを具体的に出していかないと、学年に0つけて勉強しましょうというだけでは、どうなんだろうと思って聞いていました。

高橋委員 毎日宿題があるかどうかわかりませんが、少なくとも宿題は家でします。教科の先生に子どもに家でできる宿題を出してと言ってきたというのがあります。それを子どもがどう受け止めるかです。モチベーションの問題と思うのです。して当たり前と思う子と次の日の休み時間に友だちのを写したらいいやと思う子とは、完全に開きがあります。宿題は家でしないといけないという子どもの気持ちをあげるために、どうしたらよいかという我々の方の知恵も必要かなということです。市教委として大きな方針を出していて、当たりの話だけど、明日の予習をしようと言っている。予習をしようと言っても、子どもにとったら、どうしたらいいかわからない。一コマの授業が終わった寸前くらいに、次の時間はこういうことをやると言う、宿題にあたりますけど、それを予習と言い換えていたと思います。そういう細かな第一歩が必要で、そうでないと、大人もそうだが、スマホに流れるとか、テレビに流れるとか、私もそうですが、そうなると思うんですね。色んなところをまわってきましたけれど、日野の子どもにとって、そういうところのモチベーションが一步あがると、勉強の世界が広がる、もう少ししてみようとか、良い方向に向かうという感じを受けます。

町長 今日話を聞かせていただいて、学力をしっかりと向上させるためには、どういう環境整備をするのか、学校教育の場合どのように親にわかりやすく意識づけをするのかということが大事だと思います。大規模校と小規模校があるなかで、交流という単純なことではなくて、何を目的にどこを目指して、どういうジャンルで何のためにやるのかということについても、しっかりやらなければならないと思います。それをするために、未来塾のようなものもあるだろうし、ベースのところでおっしゃったような文化や歴史も含めた地域力をつける、さらには読書力をつけるために図書館、図書室の利用がある。

もう一つは、今年からつけた支援マネージャーについても、その人個人の思いつきで頑張るのではなくて、少なくとも校長、教頭等と、この一年何をするのかを、そのためにあなたにこう汗をかいてほしいのだ、私はこうなんだという対等の議論を通じてやらないと、自分で考えてきなさいということではないと思う。

地域の人が学校に入ってきやすいようにではなくて、学校が望む地域との関わりがあって、そこにどのように地域の人達を導入していくのかということであって、地域の人が勝手に学校に入ってきたら、バランスがとれないので、学校

当局がどういう学校を運営しよう、そのために誰がどういう役割を果たし、地域にどう協力していただくかという、ちゃんとした議論がないといけないのではないかという気がします。

この会議はものを決めてまとめる会議ではございません。今日は委員さんから色々私の言いたいこともおっしゃっていただいて、自由闊達に議論していただきました。教育委員さんの意見がすべて反映できるわけでもないし、職員の意見がすべて正しいわけでもない。そこは委員さんどうしの議論も含めて高まっていくように、よろしくお願ひしたいと思ひます。ありがとうございました。